

# 令和3年度 後期 自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

## 1 特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察(◇) 改善方策(◆)	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校や小中合同校舎の特色を生かした、小中一貫を目指した教育を行っている。 目標値：教職員、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇教職員、保護者、地域ともに高い評価を得ることができている。教職員の3が多いのは、小中合同校舎での教育活動で生活しており、お互いの活動が分かりやすい反面、小中一貫を目指した教育とは言っているが、その系統性が明確でなかったり、十分でないと感じていたりする点が考えられる。 ◆へき地教育研究大会に向けて、小中合同の行事や児童会・生徒会の交流活動の機会を増やすよう、相互の交流を図る計画を立てていく。	教職員1	A	100	20	80	0	0
		A	◇前期と比べて、教職員、地域の4の割合が増えてきた。これは2学期になり、へき地研に向けて、小中合同の取組が少しずつ増えてきたことから考えられる。 ◆今後も、小中一貫を目指した教育を進めていけるよう小中合同の取組を機会を見て行いたい。また、それらの取組の計画をしっかりと練り、小中の共通理解のもと活動を進めていきたい。	保護者1	A	100	78	22	0	0
	A	◇概ね高い評価を受けているが、教職員で2の評価があり、地域も3の評価が多い。総合的な学習の時間を中心に、地域についての学習を進めているが、コロナの影響により、ふるさと学習について、予定された活動が十分できなかった。地域の教育力を生かす外部講師等も招くことができなかった。 ◆総合的な学習の時間のカリキュラムを洗い出し、他教科との連携を見直すカリキュラムマネジメントを進めていく。また、学校運営協議会を利用して、地域の人材を掘り起こし、新たに人材バンクを作成することで、学校と地域の連携を密にしていきたい。	地域1	A	100	62	38	0	0	
	A	◇全般的に、4の評価が増えてきた。コロナの影響も落ち着いてきて、地域の方を招いた行事・活動が行えるようになってきたことが大きいと考えられる。 ◆来年度に向けて、総合的な学習の時間の小中の系統性を念頭に置いたカリキュラム作りを考えたい。また、学校運営協議会で話し合い募集した学校応援ボランティアの応募がまだ少ないので、今後も宣伝し、人材を確保していきたい。	教職員1	A	100	57	43	0	0	
ふるさと教育	地域の教育力を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇概ね高い評価を受けているが、教職員で2の評価があり、地域も3の評価が多い。総合的な学習の時間を中心に、地域についての学習を進めているが、コロナの影響により、ふるさと学習について、予定された活動が十分できなかった。地域の教育力を生かす外部講師等も招くことができなかった。 ◆総合的な学習の時間のカリキュラムを洗い出し、他教科との連携を見直すカリキュラムマネジメントを進めていく。また、学校運営協議会を利用して、地域の人材を掘り起こし、新たに人材バンクを作成することで、学校と地域の連携を密にしていきたい。	児童2	B	80	20	60	20	0
		A	◇全般的に、4の評価が増えてきた。コロナの影響も落ち着いてきて、地域の方を招いた行事・活動が行えるようになってきたことが大きいと考えられる。 ◆来年度に向けて、総合的な学習の時間の小中の系統性を念頭に置いたカリキュラム作りを考えたい。また、学校運営協議会で話し合い募集した学校応援ボランティアの応募がまだ少ないので、今後も宣伝し、人材を確保していきたい。	児童6	A	100	67	33	0	0
	A	◇学級・学校だよりを定期的に発信し、ホームページを毎日更新し、学校の情報を相互補完しながら発信できていることが高評価につながったと考えられる。 ◆課題となっているホームページの発信の役割分担に向けた研修を行いたい。また、ペーパーレスを念頭に置いた情報発信の方法についても検討していきたい。	保護者2	A	100	67	33	0	0	
	A	◇前期に引き続き、概ね高い評価を得ることができた。校長によるホームページでの発信の他、各学級通信や学校だよりによる情報発信を継続したためと考えられる。 ◆ホームページの更新についての研修を実施できていないので3学期に取り組みたい。また、見てもらえる、読んでもらえる情報となるよう発信方法やその内容についても検討していきたい。	地域2	A	100	25	75	0	0	
家庭・地域との連携	各種便りやホームページ等を通して、情報発信に努めている。 目標値：教職員、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇学級・学校だよりを定期的に発信し、ホームページを毎日更新し、学校の情報を相互補完しながら発信できていることが高評価につながったと考えられる。 ◆課題となっているホームページの発信の役割分担に向けた研修を行いたい。また、ペーパーレスを念頭に置いた情報発信の方法についても検討していきたい。	教職員2	A	100	57	43	0	0
		A	◇前期に引き続き、概ね高い評価を得ることができた。校長によるホームページでの発信の他、各学級通信や学校だよりによる情報発信を継続したためと考えられる。 ◆ホームページの更新についての研修を実施できていないので3学期に取り組みたい。また、見てもらえる、読んでもらえる情報となるよう発信方法やその内容についても検討していきたい。	児童6	A	100	78	22	0	0
	A	◇学級・学校だよりを定期的に発信し、ホームページを毎日更新し、学校の情報を相互補完しながら発信できていることが高評価につながったと考えられる。 ◆課題となっているホームページの発信の役割分担に向けた研修を行いたい。また、ペーパーレスを念頭に置いた情報発信の方法についても検討していきたい。	保護者2	A	100	78	22	0	0	
	A	◇前期に引き続き、概ね高い評価を得ることができた。校長によるホームページでの発信の他、各学級通信や学校だよりによる情報発信を継続したためと考えられる。 ◆ホームページの更新についての研修を実施できていないので3学期に取り組みたい。また、見てもらえる、読んでもらえる情報となるよう発信方法やその内容についても検討していきたい。	地域2	A	100	75	25	0	0	
学校関係者 評価委員の意見	○ 地域の人材は豊富なので、コロナ収束後はふるさと学習など地域の教育力を生かしてほしい。 ○ いろいろな面で地域交流や活動の範囲が限られる中で学校だよりやホームページで子供たちの活躍を知り感心している。 ○ 異学年の教え合いや、ふるさと学習の発表会の実施など児童数が少ないデメリットをメリットに変えるアイデアを出し合って交流活動を進めやすいのではないかと思います。 ○ ジュニアの結果もホームページに載せてほしい。 ○ 学校の取組や子供たちの様子をうかがい知ることができるので、今後も積極的にホームページや学校だより等の情報発信を継続してほしい。 ○ コロナの影響でいろいろな行事が行えない中、先生方ができる範囲で積極的に取り組まれ、児童もそれに応えていたように思う。 ○ 教育の里篠山と思っていますので、地域・保護者の積極的参加を願うためにも、「人材バンク」は是非とも早く作り上げたい。 ○ 学校応援ボランティアの募集をホームページにも掲載し広く呼び掛けてはどうか。	学校の対応	○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、従来の活動ができにくい状況ではあるが、できないことを嘆くのではなく、できることを見つけて、工夫を加えて取り組んでいく。 ○ へき地教育研究会の開催に向けて、授業等の学習面と、総合的な学習を中心とした地域とのつながりに重点を置いて活動を進めていく。授業では、小規模校のデメリットをメリットに変える取組についてICTの活用を中心に研修を進めていく。地域とのつながりについては、人材バンクの作成に取り組み、地域人材を活用した授業を計画したり、防災学習会など地域も巻き込んだ活動を進めたりしていく。 ○ 今後も、児童の様子やがんばりを学校だよりやホームページを使って、発信していく。	教職員3	A	100	100	0	0	0
			○ へき地教育研究会に向けて、ふるさと学習や小中合同の活動を計画する交流活動部会、児童生徒の学力向上への手立てを考える学力向上部会の各部会の取組を本格的に始動し、学校が一体となった取組となるよう研修を進めていく。 ○ 人材バンクの登録者がまだ少ないので、完成に向けてホームページや学校だよりを使って積極的に声掛けを行うなど広報活動を継続し、ふるさと学習の充実が図れるようにする。 ○ 情報発信の方法として、ホームページや学校だより以外の方法も検討していきたい。また、読んでもらえる、見てもらえる内容となるよう表現内容・方法等も検討していきたい。	保護者14	A	100	78	22	0	0
			○ へき地教育研究会に向けて、ふるさと学習や小中合同の活動を計画する交流活動部会、児童生徒の学力向上への手立てを考える学力向上部会の各部会の取組を本格的に始動し、学校が一体となった取組となるよう研修を進めていく。 ○ 人材バンクの登録者がまだ少ないので、完成に向けてホームページや学校だよりを使って積極的に声掛けを行うなど広報活動を継続し、ふるさと学習の充実が図れるようにする。 ○ 情報発信の方法として、ホームページや学校だより以外の方法も検討していきたい。また、読んでもらえる、見てもらえる内容となるよう表現内容・方法等も検討していきたい。	地域7	A	100	92	8	0	0
			○ へき地教育研究会に向けて、ふるさと学習や小中合同の活動を計画する交流活動部会、児童生徒の学力向上への手立てを考える学力向上部会の各部会の取組を本格的に始動し、学校が一体となった取組となるよう研修を進めていく。 ○ 人材バンクの登録者がまだ少ないので、完成に向けてホームページや学校だよりを使って積極的に声掛けを行うなど広報活動を継続し、ふるさと学習の充実が図れるようにする。 ○ 情報発信の方法として、ホームページや学校だより以外の方法も検討していきたい。また、読んでもらえる、見てもらえる内容となるよう表現内容・方法等も検討していきたい。	地域7	A	100	75	25	0	0

## 2 確かな学力の定着と向上

基礎学力の定着	「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。	A	◇いずれもA評価になっているが、児童の評価と教職員の4と3の評価の割合の違いは、教師と児童の目標値の違いから生じたのではないと思われる。 ◆授業改善はもちろん、ささなじゅく・ドリルパーク等を上手に利用して、基礎・基本の更なる徹底を図る。また、教師と児童の目標の共有化を図るために4は単元テスト90%以上、3は80%以上というように目標値を設定して、振り返りをさせるようにする。	教職員4	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	B	◇児童・保護者の肯定率は目標値を超えているが、細かく見ると前期より肯定率が下がっている。教職員は目標値に達することができなかった。2学期に入って学習の難易度も上がり、特に教員側から見ると課題を強く感じているのではないと思われる。 ◆目標値の共有を図るために、「単元テストでは90%以上が、4、80%以上が3、60%以上が2」の基準を設ける。また、本校児童の特徴として、学習内容の定着に課題があるので、授業の前半や後半に復習としてドリルパークを活用し、学習内容の定着を図れるようにする。	教職員4	C	80	0	80	20	0
授業改善	表現力・思考力を身に付ける授業実践に努めている。	A	◇授業では、対話を意識した学習活動を設定してきたが、1学期は1人1台端末の活用に重点を置いたため、ICTの指導に時間を割くことが多くなってしまった。 ◆2学期からは、ICTを活用した対話はもちろんであるが、従来の対話による課題解決にも力を入れて授業を行っていく。	児童2	A	100	89	11	0	0
	目標値：教職員、児童生徒の85%以上が肯定	A	◇概ね高評価であるが、細かく見ると4の肯定率が若干下がっている。 ◆学習の中でどう考えればよいか、いかに伝えたと相手に分かりやすいかという点に課題を感じている児童が多いように思える。授業の中で互いの意見交流をする場を設定し、経験を継続して積ませていく。また、授業中はもちろん日常の会話においても単語で話すのではなく、文章で伝えられるように声を掛けていく。	保護者3	A	100	44	56	0	0
家庭学習の定着	家庭学習の習慣が身に付いている。	A	◇概ね高評価ではあるが、児童1名が、2の評価を付けている。宿題のチェックは日々行っているが家庭学習の時間についてはマスターウイーク以外に行っていなかったため、タイムリーな指導ができなかった。 ◆児童自身が家庭学習の時間に目を向け、意識して取り組むことができるように、マスターウイークの時だけでなく計画帳に家庭学習の時間を記入させて、家庭学習の習慣付けを図る。また、これらの取組を学校だよりや学級だよりでも知らせることで、今まで以上に家庭との連携を図る。	教職員5	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の80%以上が肯定 低学年：30分以上 中学年：40分以上 高学年：60分以上	A	◇引き続き高評価であるが、保護者の評価が若干下がっている。 ◆2の評価を付けた家庭がある。2学期に気のゆるみが出たのかもしれない。学校全体というより、個人の課題である。家庭での過ごし方の指導はもちろん、宿題のチェックの仕方など根気強く指導して、学校と家庭とのより一層の連携を図っていく。計画帳に家庭学習の時間を書き込ませることを継続して児童に意識させる。	児童7	A	100	56	44	0	0
学校関係者 評価委員の意見	○ 基礎学力の定着や家庭学習の定着の評価もよく感じている。	学校の対応	○ 授業においては、デジタル教科書やICT機器を活用することで、学習内容の理解だけでなく、理由や根拠を明確にした対話的な学習を進めていく。また、定期的に行うささなじゅく(補充学習)の時間を利用して、個に応じた学習を進め、基礎・基本の定着を図る。 ○ 家庭学習の習慣化について、家庭学習の時間を記録したり、1日の過ごし方を記録したりと生活のリズムを可視化することで、自分の生活を振り返らせるようにする。	教職員6	A	100	25	75	0	0
	○ ささなじゅく、ドリルパーク等の利用は、本校ならではの特性であり、継続してほしい。 ○ 基礎学力もついており、一人一台端末を活用したICT指導ができており、小規模校の特性を生かしている。 ○ 学力の定着でB評価は残念だ。 ○ 先生方の4が少ないことは、児童は目標に対してまだ頑張れるという思いの表れだと思う。個に応じた学習をと言われているので、少人数ならではの個の対応を期待したい。			児童13	B	89	67	22	11	0
				保護者4	A	100	44	56	0	0
				教職員6	A	100	25	75	0	0
				児童13	A	100	78	22	0	0
				保護者4	A	89	22	67	11	0
				○ 現在取り組んでいる対話的な学習を進める上で、表現力、思考力は欠かせないものである。話し手は相手に分かってもらえるよう、単語ではなく主語や述語を明確にしたり、一文を短くしたりして分かりやすい表現を心掛けさせたい。また、聞き手においては、知りたい、分かりたいという意識で共感的に聞くことを心掛けさせたい。 ○ 家庭学習の習慣化に向けて、家庭学習の時間を計画帳に記入させ、生活を振り返らせるようにしている。今後、この取組を継続し、時間の使い方を意識させ、読解力向上のための読書時間の確保を図りたい。						

### 3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を中心に、自他を思いやる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇道徳科や学級活動等の授業を中心に、相手の立場を考えた言動をとることができるよう、指導を継続してきた。「いいとこ見つけ」を様々なパターンで継続することも児童の自尊感情の育成につながり、高い評価になっていると思われる。 ◆今後も、教職員は、真剣に考え、伝え合い、自分の生き方に生かそうとする道徳科の授業と評価についての研修を深めていく。「いいとこ見つけ」などの記録を残し、児童の人権意識を高めていくことにも生かしていきたい。また、身近なニュースや豪雨災害などの具体的実践事例からも、自他の生命を大切にすることを学ばせたい。	教職員7 児童5 保護者9	A A A	100 100 100	50 100 89	50 0 11	0 0 0	0 0 0
		A	◇教職員、児童、保護者共に前期に比べると3の割合が多くなっているが、高い評価になっている。道徳科や特別活動の授業はもろんであるが、継続して行っている「いいとこ見つけ」や終わりの会での発表も思いやりの心を育てる良い機会となっている。 ◆今後も、教職員は、教育活動全般を通じて、機会を捉えて児童の人権意識を高めていきたい。また、身近なニュースや社会問題などの具体的実践事例からも、自他の生命を大切にすることを学ばせたい。	教職員7 児童5 保護者9	A A A	100 100 100	20 78 67	80 22 33	0 0 0	0 0 0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域住民の90%以上が肯定	B	◇児童、地域、保護者の評価は高くなっている。しかし、決まった場所以外での挨拶にはまだ課題が残る。また、返事についても、やや小さかったり、返ってこなかったりすることがあるために、教職員の評価が低くなっている。 ◆2学期以降も、教師が率先して行う姿勢を見せながら、機会をとらえて今以上に気持ちのよい挨拶ができるように継続指導をしていく。返事については、人の話を聞くことの大切さと合わせて指導し、気持ちのよい返事を定着させるようにする。	教職員8 児童8 保護者6 地域3	C A A A	60 100 100 100	20 67 44 50	40 33 56 50	40 0 0 0	0 0 0 0
		B	◇概ね高い評価を得ている。教職員の評価が少し上がったが、保護者の評価が少し下がった。特定の場所や時間では挨拶ができるが、それ以外では課題が残る。また、返事についても、やや小さかったり、返ってこなかったりすることがあり、改善されているとは言えない。 ◆今後も、教師が率先して行う姿勢を見せながら、機会をとらえて今以上に気持ちのよい挨拶ができるように継続指導をしていく。返事については、目を見て人の話を聞くことの大切さと合わせて指導し、気持ちのよい返事を定着させるようにする。	教職員8 児童7 保護者6 地域3	B A B A	86 100 89 100	14 33 33 75	71 67 56 25	14 0 11 0	0 0 0 0
後始末運動の推進	使用した物をきちんと片付ける習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の80%以上が肯定	B	◇昨年度から重点的に指導を継続してきた結果、児童、教職員ともに意識が高まり、高い評価につながってきた。しかし、保護者の評価が低いことから、習慣化していると言い難い。 ◆片付けが習慣化することにより、必要なものがすぐに使えたり、物を大切にしたりすることにつながることに触れながら、家庭とも連携を図り、今後も目を離さずに継続して指導をしていく。児童への意識付けをしていくために、チェック表なども活用しながら改善を図っていききたい。	教職員9 児童11 保護者8	B A C	80 100 78	20 67 0	60 33 78	20 0 22	0 0 0
		B	◇概ね高い評価を得ている。しかし、教職員や児童の評価と比較すると、保護者の評価が極端に低い。集団生活を送る学校においては、意識してできていることが、家庭ではできていないことが多いと思われる。 ◆今後も片付けの大切さに触れながら指導を継続していく。家庭とも連携を図りながら、児童への意識付けを行っていききたい。	教職員9 児童11 保護者8	A A D	86 100 44	14 22 11	71 78 33	14 0 56	0 0 0
健康な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇概ね良い評価である。毎月実施しているマスターウィークの調査でも朝食、早起きはほぼ達成できているが、早寝については達成率が低い。 ◆マスターウィークを今後も継続して実施し、児童の実態把握に努め、保健だより等で健康な生活習慣の確立を図る。	教職員10 児童14 保護者12	A A A	100 100 100	40 67 33	60 33 67	0 0 0	0 0 0
		A	◇引き続き良い評価である。早寝についても少しずつではあるが達成率が上がってきている。 ◆早寝ができるようになるために、帰宅後にしなくてはいけないことやそれをいつするか等、時間の使い方について振り返らせたい。そのために、今後もマスターウィークを実施し、家庭や児童への啓発として保健だより等を発信し健康な生活習慣の確立を図る。	教職員10 児童14 保護者12	A A A	100 100 100	57 33 11	43 67 89	0 0 0	0 0 0
体力づくりの推進	体育の授業や部活動、「えひめITスタジアム」への参加等により、体力・運動能力が向上している。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定 ☆「えひめITスタジアム」への登録が2週間に1回以上	A	◇社会体育の取組もあり、新体力テストでもA判定の児童が増加した。また、体育の授業での一輪車やなわとびの取組が、授業だけでなく、業間、休み時間などでの児童の活動として定着してきた。 ◆今後「えひめITスタジアム」の取組に力を入れ、運動が苦手な児童も含めた活動により、体力の底上げを図っていききたい。	教職員11 児童9 保護者11	A A A	100 100 100	40 89 33	60 11 67	0 0 0	0 0 0
		A	◇前期に引き続き、高い評価を得ることができた。各種大会の結果だけでなく、日頃の体育の授業の中でも、これまでできなかったことができるようになるという経験を積むことができたからと考えられる。 ◆「えひめITスタジアム」へ参加したが、まだ回数が少ない。人数が少ないため参加できる種目に制限があるが、体育の時間や業間を使って年間を通して取り組んでいけるようにしたい。	教職員11 児童9 保護者11	A A A	100 100 100	29 78 67	71 22 33	0 0 0	0 0 0
学校関係者評価委員の意見	○ いいとこを見つけることは親でも難しいと感じることがある。多様な意見が受け入れられることはよいことだと思う。 ○ 義務教育期間は元気な挨拶ができるのに、高校生になると継続しないのが残念である。 ○ 後片付けの習慣は社会に出て必要なので、継続することが大切である。	学校の対応	○ 挨拶、後片付けの習慣化について課題が残った。まず、なぜ大切なのか、道徳などの時間を使ってその意義を児童に理解させたい。児童の様子については、発達段階に応じて、できていることでないことを明確にし、その様子を保護者、地域と共有しながら、連携して取り組んでいきたい。また、習慣化により慣れてしまっただけの挨拶となっているため、相手の目を見て、気持ちのこもった挨拶の指導にも努めたい。 ○ 児童は、体力向上に向けて、休み時間等を使って体力づくりに取り組んでいる。その成果を検定表に記録し、意欲を継続させたい。またITスタジアムの取組で、全校で目標に向けて取り組むことができたので、来年度に向けて取組を継続していきたい。							
	○ 片付けの習慣は、大人になっても難しいですが、家庭とも連携し、継続して指導してほしい。 ○ 挨拶については、高学年になると恥ずかしかったり、大きな声が出せなかったりするのは仕方がない気がする。 ○ 挨拶はよくできていると思う。気持ちのよい声が聞こえる。「いいとこみつけ」はとてもいいと思う。見習いたい。 ○ 仲良くするために相手を褒める、いいとこを見つける、見つけてもらう。主体としての自分が願うものが見つけられなければ、作り事と映りかねないのではないか。成長過程の中で、主体性を求めても過程であり、不十分で十分という認識も必要ではないか。									

4 健全育成の推進

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育てている。 目標値：教職員、児童生徒の90%以上が肯定	A	◇児童、教職員ともに高い評価を得た。 ◆善悪の判断がきちんとできる児童の育成を目指し、これまで通り、教職員は指導を継続していく。教育活動全般を通してあらゆる機会を捉えて指導するのはもちろんのこと、模範的な児童を褒め、規範意識を高めていきたい。	教職員12	A	100	20	80	0	0
		A	◇児童、保護者、教職員ともに高い評価を得た。しかし、自主性については、まだ十分ではない面も見られる。 ◆善悪の判断がきちんとできる児童の育成を目指し、これまで通り、教職員は指導を継続していく。教育活動全般のあらゆる機会を捉えて規範意識について指導するのはもちろんのこと、「さ・さ・な」の合い言葉にもある「先に行動する」に関連付けて、自主性も身に付けさせたい。	教職員12	A	100	29	71	0	0
	一人一人の教育的ニーズに応じ、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。 目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇日頃からきめ細かな指導を心掛けていることが表れている。 ◆今後も全教職員で児童一人一人を見守りながらその場その場で適切な指導、支援をする。また、今まで以上に情報交換及び共通理解を図っていく。	教職員13	A	100	80	20	0	0
個に応じた指導の充実	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇4の評価が若干下がったが、肯定率は100%と高い評価である。この人数だからこそ、日々個に応じた学習及び生活指導が推進されていることがうかがえる。 ◆学習面では、個に応じた各学年のまとめができるよう苦手な分野や単元の復習に重点を置いて指導する。ささなじゅくの時間も活用していきたい。また、生活面でも個に応じた課題に対してアドバイスや指導を継続していく。	教職員13	A	100	71	29	0	0
		A	◇毎月実施している「なかよしアンケート」やそれを踏まえての教育相談がきちんと実施されていること、教職員がタイムリーな指導、支援を行った結果が高評価につながっている。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」及び教育相談を実施し、児童の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。保護者や地域に対しては、ホームページによる発信だけでなく、各種会合で学校の取組や児童の様子等について、積極的に公開していく。	教職員14	A	100	100	0	0	0
生徒指導の充実	いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇毎月実施している「なかよしアンケート」やそれを踏まえての教育相談がきちんと実施され、学級担任はもちろんのこと教職員間で共通理解を図り、タイムリーな指導、支援を行った。その結果が高評価につながっている。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」及び教育相談を実施し、児童の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。また、朝の会では、全校児童で「いじめSTOP」宣言を唱え、意識付けを図ったり、不安や悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。	児童4	A	100	89	11	0	0
		A	◇毎月実施している「なかよしアンケート」やそれを踏まえての教育相談がきちんと実施され、学級担任はもちろんのこと教職員間で共通理解を図り、タイムリーな指導、支援を行った。その結果が高評価につながっている。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」及び教育相談を実施し、児童の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。また、朝の会では、全校児童で「いじめSTOP」宣言を唱え、意識付けを図ったり、不安や悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。	保護者10	A	100	56	44	0	0
学校関係者評価委員の意見	○ きまりやマナーを守らない大人が多い中、自分で判断して行動できることが大切だと思う。 ○ 今後いじめ等の兆候が見られた場合、学校の対応や地域がどのように関わって対応すればよいかお聞かせいただければと思う。 ○ 外から見ても児童の礼儀やマナーはとてもよく、学校でのいじめの話も聞くことがない。 ○ マナーの悪い大人が多い中、恥ずかしいと思うことあるので、そんな思いをしてほしくない。 ○ 競争意識と社会性のバランスが大切。大人社会の評価を児童に検証してもらいたいものだ。	学校の対応	○ 全校での活動や小中合同の活動を計画的に実施する。少ない人数ではあるが、多様な年齢構成での活動を行うことで、それぞれの役割や取るべき行動について学ばせる。また、それらの活動を通して決まりやルールを尊重する態度を育成したり、ともに認め合い学び合う集団作りに取り組んだりする。 ○ 児童の様子について、アンケートや教育相談、小中で連携した視点でとらえ、いじめの未然防止を心掛ける。ホームページにも掲載している「いじめ防止基本方針」についても再度周知していきたい。	教職員14	A	100	86	14	0	0
			○ 毎月のアンケートや教育相談等を利用して、児童一人一人を多面的に見取り、いじめの未然防止に努めたい。また、教職員研修会で、児童生徒一人一人を見つめたり、学級の様子を話し合ったりして、小中全体で共通理解を図る会を今後も継続していく。 ○ 日々の人間関係の中で、トラブルを自分たちで解決したり、傍観者とならず、みんなで積極的に関わり合う人間関係作りを心掛け、人間関係作りのエクササイズや良好なコミュニケーションの取り方について指導していきたい。	児童4	A	100	100	0	0	0
				保護者10	A	100	44	56	0	0

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。	A	<p>◇今年度は、地震、不審者等の避難訓練や引き渡し訓練も実施することができた。2学期以降も砂防学習会や起震車体験など防災教育を進めていきたい。</p> <p>◆児童の学習を、児童を通して家庭に発信していけるようにすることで、家庭の防災意識を高め、学校運営協議会を中心に地域での防災学習も計画し、地域全体の防災意識を高めるきっかけを作っていきたい。</p> <p>◆新しい生活様式の定着のための意識付けを継続させる。また、各種避難訓練の計画的な実施により、様々なケースを想定した行動を身に付けさせたい。</p>	教職員16	A	100	60	40	0	0
	目標値：教職員、児童生徒、保護者の90%以上が肯定	A	<p>◇前期と同様、概ね高い評価を得ることができた。機会をとらえて避難訓練や防災学習会を行ってきたことが高い評価につながったとかが得られる。</p> <p>◆各種訓練実施後、児童がその活動を保護者に伝え、感想を書いていただくことで、活動について知ってもらいようにしたり、地域も交えた防災学習会を行ったりしたことで、まずは学校発信で、家庭・地域の防災力の高揚を図った。今後、関係諸機関との連携を深めていきたい。</p>	教職員16	A	100	57	43	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	学力向上、生徒指導等において研修や自己研鑽に努めている。	A	<p>◇GIGAスクールにより1人1台端末を使用するようになった。児童の高い適応力により、評価も高くなっている。</p> <p>◆授業の中でも活用場面や活用するアプリについての情報交換や研修を適宜行い、効果的な活用について共通理解を図れるようにしたい。</p> <p>◆引き続き、新学習指導要領に対応した指導の研究を行いながら、「へき地教育研究会」に向けた研修を中学校と足並みをそろえて行っていく。</p>	教職員17	A	100	40	60	0	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	<p>◇前期と同様に高い評価であった。日々の授業実践の中でICTの活用を通して、対話的な学びに取り組んでいるからだと考えられる。</p> <p>◆学力向上推進計画について、全教職員の共通理解のもと授業実践を行っていききたい。また、へき地教育研究会に向けて各部会の取組についても同様に共通理解のもと実践していききたい。</p>	教職員17	A	100	80	20	0	0
学校関係者評価委員の意見	<p>○ 自分で安全に行動する行動力や判断力を身に付けることが大事だと思う。</p> <p>○ 先生方の資質も言うことがなく、見習わなければいけないと思う。</p> <p>○ 自分で考え、行動できるようになればいいと思う。</p> <p>○ 児童の高い適応力を引き出してほしい。</p> <p>○ 防災学習会は防災意識の高揚を図る意味で大変有効であり、今後は折を見て、学校、保護者、より多くの地域住民も参加しての防災訓練も必要と思われる。</p>	学校の対応	<p>○ 様々な想定避難訓練を繰り返し実施し、児童に、自分の命は自分で守り切るための意識付けを行っていく。また、児童がそれらの体験を家庭に伝えることで、保護者の防災意識の高揚を図りたい。さらに11月に地域も交えた防災学習会を実施し、防災意識の高まりを地域全体に広げていきたい。</p> <p>○ 授業におけるICT機器の活用について、校内だけでなく、他校とも情報交換を行い、効果的な活用法についての研修を続ける。</p> <p>○ 今年度、防災学習会を休日に設け、学校、保護者、地域が一体となって、地域の防災力向上に向けた一歩を踏み出すことができた。今後も地域の防災意識が高められるよう防災学習会を継続していきたい。そのために、愛南町防災学習プログラムを基に、各学年で防災学習を位置付け、取り組んでいきたい。また、今年度コロナの影響で実施できなかった砂防学習会や火災訓練の実施を引き続き計画していきたい。</p> <p>○ 一人一台端末での授業実践を1年間行ってきた。今後、ICT機器の活用を目的にするのではなく、学習の中で、より効果的な活用を図れる場面、活用法を検討していきたい。</p>							